

トップメッセージ

創立70周年にむけて

加藤産業は、創立70周年を迎える2017年を目標年度とする長期ビジョンとして「強くて優しい会社」「グループ売上1兆円、経常利益130億円」を掲げています。

このビジョンでは、当社グループが自主独立した全国卸売業としての存在感を維持・拡大するための規模と収益を追求しつつ、それを支える企業体質および体制を構築することで、社会的な付加価値を創造する事業を通じた適正利益の確保と企業市民としての両面から社会に貢献する企業グループへ成長することをめざすものです。

物流部門を中心にCO₂排出量削減を推進

環境的側面では、当社全体の約95%を占める「支店・営業所・物流センター」と「物流」の2部門のCO₂排出量の削減が大きなテーマとなっています。

当社は、北海道から沖縄まで全国規模で物流センターを展開しています。

2011年度は、まず8つの物流センターの照明設備を省エネ型へと改修する計画で、3年間で約1,100tのCO₂排出量削減を見込んでいます。

また、物流面では、お得意先さまへの積極的な物流の最適化・効率化提案などで、実質車輛台数の削減をはかっています。

こうした取り組みによって、2010年度を基準年度と

して2013年度までに、CO₂排出量（売上高あたり原単位）の10%削減をめざします。

「安全・安心」確保の体制を充実

社会的側面では、食品製造メーカーとして自社ブランド製品の「安全・安心」確保が最も重要なテーマです。

自社グループ工場の品質管理徹底はもちろん、近年注力してきた国内外の自社ブランド製品製造委託取引先さまへの取り組みも着実に前進しています。訪問や定例会などで、課題やその対策の情報共有、改善についての討議の機会を増やすことで、一体となった「品質向上のしくみ」を構築しています。

地域社会に対しては、「障がい者の方々や将来を担う子どもたちの役に立つところに基金を利用したい」という想いで2005年から実施してきた「KATO グリーンウッド基金」による支援を今年度も継続できました。これは従業員の社会貢献活動参加人数に応じて会社が評価し賛助金を拠出するもので、地域社会と従業員、会社の協同の取り組みとなっています。

コンプライアンス・リスクマネジメント体制の整備

「CSRの取り組み」の基礎となるグループ内体制の整備も重要です。「業務標準化プロジェクト」および「内部統制システム」の整備改善を推進するとともに、コンプライアンス・リスクマネジメント体制の充実にも

着手しました。

“つなぎ”をテーマに「CSRへの取り組み」を深化

2011年度のキーワードには“つなぎ”を掲げています。“つなぎ”は卸売業の基本ですが、単につなぐだけでなく、あらゆるステークホルダーのみなさまとの関係を深める中から「新しい価値」の創出をはかるものです。

今後も、本業の誠実な遂行を基本に、“つなぎ”を重視し、一歩ずつ着実に課題に取り組んでまいります。

2011年3月



代表取締役社長

加藤和弥